

勝林寺寺報

わたしの大事にしている三つの言葉

(保育園の副園長さん弘中直子先主から聞いたお話し)

毎日、自宅と職場の往復でくたくたになります。壁にぶち当たって、泣きたくなったりします。思う通りにならないと、わめきたい日もあります。そして、わがままな自分にあきれかえって、ふうっとため息をつくこともしばしばです。そんなとき、ふと思いつくことばが三つあります。わたしはその言葉をおぼえ、深く呼吸をし、優しい気持ちを取り戻すことができるのです。

「よい子やなあ」。懐かしい祖母の声は四〇歳を過ぎた今も、柔和な笑顔と丸い背の姿とともに、わたしの耳元に響いてきます。

二つ目は、結婚式の前日のこと、飛行場からタクシーで主人の家に到着したとき、玄関から小走りで駆け寄ってきてくれた姑は、胸に掌をあわせて「遠いところからよう来たねえ。深いご縁で親子にならしてもらおうんや。仲良くさせてもらおうね」と言ってくれたんです。一緒に暮らしていると、時には気持ちの食い違いが生じたこともありましたが、温かく迎え入れられたという安心感で姑には何でも話ができ頼ることができました。

三つ目は、三人目の子を出産後に、滋賀の実家からお手伝いに来てくれた母のことばです。一週間の滞在中、生まれたばかりの長男をあやしむつ、二人の娘たちの洗濯物をたたみつつ、「大事にしいや、こんな良い子に恵まれて、大事にしいや」母は何度わたしに語ってくれたことでしょう。こどもたちは、大

学・高校・小学生となり、なかなかこちらの思うとおりにならず、腹がたったりため息をついたりすることもしばしばです。そんなとき母の声が聞こえて来て、ハッとさせられます。母は半年後、突然脳内出血で亡くなりました。あれは、わたしへの母の遺言であったと思っています。

実家からお手伝いに来てくれた母のことばです。一週間の滞在中、生まれたばかりの長男をあやしむつ、二人の娘たちの洗濯物をたたみつつ、「大事にしいや、こんな良い子に恵まれて、大事にしいや」母は何度わたしに語ってくれたことでしょう。こどもたちは、大学・高校・小学生となり、なかなかこちらの思うとおりにならず、腹がたったりため息をついたりすることもしばしばです。そんなとき母の声が聞こえて来て、ハッとさせられました。母は半年後、突然脳内出血で亡くなりました。あれは、わたしへの母の遺言であったと思っています。

「良い子やなあ」「よう来たねえ」「大事にしいや」。すでにお浄土にかえった祖母・姑・母。それぞれのことばは南無阿彌陀仏のお念仏となり、わたしを励ましつづけて下さっています。

忙しい日がつづく、その御手のなかにいることさえも忘れてしまう私ですが、しあわせをしあわせと思えるきもちを大事に、歳を重ねて行きたいとおもうこのごろです。

安養浄土は

こいしくもあり

不安のままに

岡山北組 白蓮寺 水村長則

兵庫県正門徒推進員連絡協議会

最寄りのお寺の報恩講にも

「真宗」誌で出石組内の真宗寺院の報恩講の日程と講師が紹介されています。

お近くのご縁を求めて どうぞお参り下さい。



八鹿町上小田の文扇藤愛友太不ちゃん、ご両親(義弘・なるみ様夫妻)や祖母幸恵様などに伴われて初参り式にお参りしました。上小田の美しい地に将来すばらしい愛の家庭が開く実として生まれ出たような可愛い元気な赤ちゃんでしたので、例によって次のようにお祝いの歌をうたいました。

美しき小田よし 広き

いとうまし地に(斎藤)

実ぞ生(あ)れにける

(うつくしい)上小田はよいとろろ。広々と大変豊かな地。その地に、将来愛の花咲く家庭を作り出す種子が今生まれ出ました。おめでとう。

十一月のこよみ

- 一日 『勝林寺寺報』配達
- 三日 DS、文化の日行事警備
- 四日 西方寺報恩講
- 五日 高福寺報恩講
- 六日 高福寺報恩講
- 七日 同朋運動五〇周年記念法要(本山) DS
- 八日 ボランティア・アドバイザー講座
- 九日 八代光頭寺報恩講
- 十日 近畿ブロック仏連連盟総会(滋賀)
- 十一日 光頭寺報恩講、検診、DS、本覚寺報恩講
- 十二日 室生村万行寺報恩講(↓十二日) 本覚寺報恩講
- 十三日 北海道竜溪寺報恩講(↓十四日)
- 十四日 俱知安町東林寺報恩講(↓十六日)
- 十五日 福成寺報恩講
- 十六日 福成寺報恩講 十六夜会定例法座
- 十八日 仁木町無量寿寺永代経(↓十七日) 真狩村真竜寺永代経(↓十九日) 清掃奉仕(午後二時)
- 十九日 おみがさ奉仕(午後四時) 足立幸夫氏宅法事
- 二十日 莊嚴前
- 二十一日 報恩講
- 二十二日 報恩講
- 二十三日 正福寺報恩講
- 二十四日 正福寺報恩講 DS
- 二十五日 浜 薫氏宅法事
- 二十六日 横山 誠氏宅法事
- 二十七日 みのりを聞く会定例法座
- 二十八日 全国ビハラー研修会(本山) 同し DS



別修(敬老)報恩講のときの忘れ物 「女性用 高級靴」

秋の母

田圃の畦一杯に燃えるように彼岸花が咲きどころともなく木犀の香りが漂ようころになると、わたしは不思議と幼なころにかえって母のことを思い出します。

五歳のわたしを、山里の里の祖父母の家にあずけて、走るようにして後も振り向かず去って行った、あの日の母の姿を思い出すので

戦争から帰ってすぐに父は重い病に罹って奥の部屋で寝たきりでした。魚屋の商売は、ですから母一人の肩にかかっていたので、朝早く浜の市場まで魚を買い付けに自転車で出て行く母を子供心に気の毒に思ったものでした。

私が真ん中で、上と下にそれぞれ二歳ちがいの姉と妹がおりまして、そんな中で三人の子育ては、到底無理でありました。それで私を里の祖父母に預かってもらったのだと思います。

里の祖父母のもととはいいながら子供を手放すことはつらかったのだと思います。子供とその荷物を祖父母に手渡すやすぐに、後ろを振り向かず走り去って行った母の気持ちは今にして痛いほどわかります。

預けられた日の翌朝。祖父が井戸端に連れて行って、母が預けた荷物から出したホーローびきの洗面器につるべで汲み上げた水をお願いしてくれました。「さー顔を洗え。洗う前にここに描いてある絵と歌とをよう見してみよ」祖父が洗面器に描いてある桜の絵と歌とを教えてくれました。

「散る桜 残る桜も 散る桜」

「カアチャン、なに考えとるんやろう。おじいちゃんはおつづつづつづつながらそれから「さつ、顔洗ったら、お仏壇にお参りやで。それだけはしつけてやとおかあちゃん言うて帰りましたさかい」

おじいちゃんに言われるまでもなく、うちでは生まれた時から お仏壇に参るのは当たり前の習慣のようになっていました。どんなに忙しいときでも、朝晩母に寄り添ってナンダブツを唱えるのでした。「なんまんだぶつは、仏様の呼び声や。生きるも死ぬるも

お呼び声のなかやで」これが母のくちぐせでした。

父が先に逝って、それから五年おいて母も死にました。無理がたたったのです。母はそのことを予想して、あの洗面器の歌を残したのでしょうか。「いくら若いからといってやがては死ぬる。だからナンダブツとほとけさんからよばれている今日いまを、もったいないことと、精一杯生きようね」とわたしは母に今も呼ばれているのです。それは木犀の香りのようにわたしを包み、曼珠沙華のように私の心のなかに燃えているように思います。

報恩講ご案内

十一月二十一日

夜七時二十分 ご伝鈔

八時 正信偈作法

ご法話

西宗寺 内田 宏圓先生

十一月二十二日

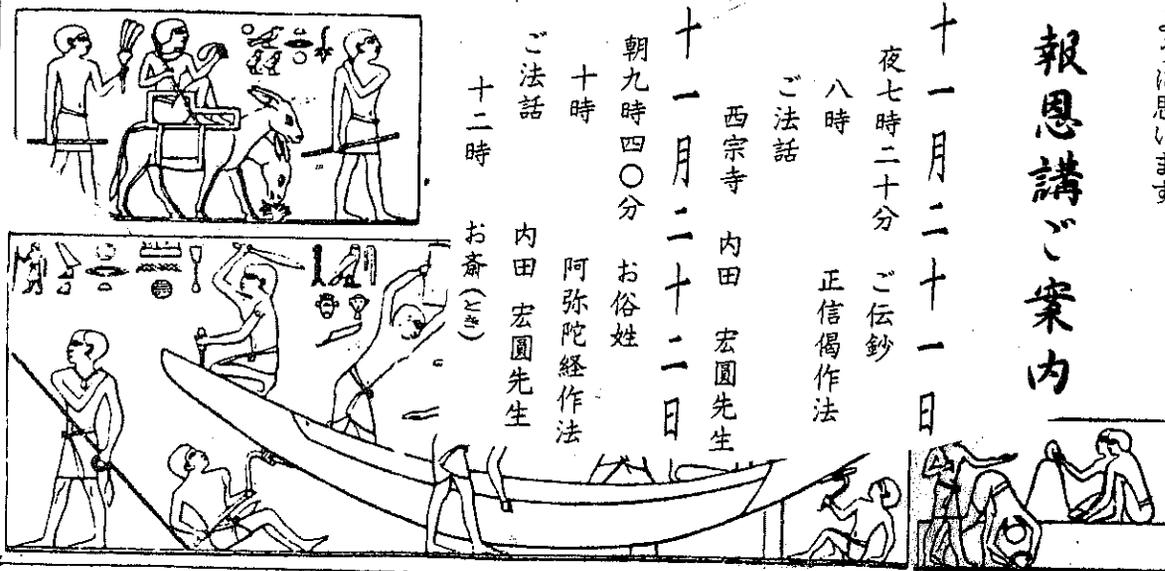
朝九時四〇分 お俗姓

十時 阿弥陀経作法

ご法話 内田 宏圓先生

十二時

お斎(ごま)



過ぎたるは及ばざるがごとし

「過ぎたるは及ばざるがごとし」という諺は昔の人からよく言われた覚えがあります。

最近ちょっと気になることがあって、この言葉の出所を調べてみたら、あの孔子さまが論語のなかにおっしゃっている言葉のようです。なんでも中庸といって「ほどほどに、かたよらない中間がいいんだよ」「なんでも行き過ぎやり過ぎはケガのもと」ということらしいのです。

その諺の意味がわかったところで、思い当たるのが一杯見えてまいりました。

まず、ある町で最近始まった「防災行政無線」というものです。どの家にも取り付けられて始まったのはいいのですが、これは係の人の真面目な張り切りからでしょう。あれやこれや情報・お知らせということで実に親切な放送が流されていきました。町の毎月の広報誌にでていたこと、つい先途回覧板で流れた情報。あああのことまた。またまた。もういいわ。だれも飽き飽き聞かなくなつて、緊急防災の役には立たなくなつてしまふそう。親切な行き届いた行政もこうなれば「過ぎたるは猶およばざるがごとし」。

いやこれは人事ではありません。老人介護のボランティア。張り切って何でも彼でもお世話をしてもらっていると、しばしば注意をうけることがあります。「服を脱いだり、ご飯たべたり。出来ることは成るべくご自分でして戴くことよ。お年寄りの自律性・自主性を大事にしてそれを支援させて戴くのが老人介護」、成るほど「やり過ぎ行き過ぎはケガの元」ということを身に染み教えられたことでした。

蓮如上人の「人見て法を説け」「どんなに正しい道理でも、相手のころ・そのときの雰囲気などお構いなしに独りよがりの説法は堅く堅く禁止だよ」。反感反発を買うのがおち。「過ぎたるは猶及ばざるがごとし」。

機をみなさい。ひとの心に寄り添って、と



いわれたのは、さすが苦勞人。500年隔たったいまの私にも響いてくださる言葉のようでありませう。

十一月十八日

清掃奉仕(午後二時)

おみがき奉仕(四時)

ご苦勞様でもご参加ご協力下さい。

仏壯・仏婦会長